

阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げ＞

中岳第一火口では、火山活動の高まった状態となっています。

本日（30 日）09 時 13 分頃に現地調査で噴火が発生していることを確認しました。このため、09 時 40 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

○ 活動概況

・表面現象の状況（図 1～6、図 7-①）

本日（30 日）08 時頃、阿蘇火山防災会議協議会から阿蘇中岳第一火口内で有色噴煙が上がっていると連絡がありました。これを受け 09 時頃に現地調査を実施し、噴火が発生していることを確認しました。噴煙は灰白色で高さは天候不良のため不明でした。また、仙酔峡（中岳第一火口の北東 2 km 付近）では、ごくわずかな火山灰を確認しました。

27 日に実施した現地調査では、中岳第一火口中央部付近で高温の噴気孔を確認しました。噴気孔の温度¹⁾は 498℃（7 月：167～341℃）で高い状態でした。

29 日 12 時 45 分に阿蘇火山博物館の火口カメラで高さ 50m を超える土砂噴出を確認しました。

・地震や微動の発生状況（図 7-②～④）

阿蘇山では 27 日以降、孤立型微動²⁾、火山性地震が多い状態で経過しており、29 日 16 時 44 分から 30 日 02 時 04 分にかけて、一時的に火山性微動の振幅が大きくなりました。その後も、孤立型微動、火山性地震が多い状態で継続しています。

これらのことから、阿蘇中岳第一火口の火山活動は高まっており、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲に大きな噴石を飛散させる噴火が発生する可能性があるかと判断し、09 時 40 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

- 1) 赤外放射温度計で観測しています。赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期 0.5～1.0 秒、継続時間 10 秒程度で振幅が $5 \mu\text{m/s}$ 以上のものを孤立型微動としています。
- 3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

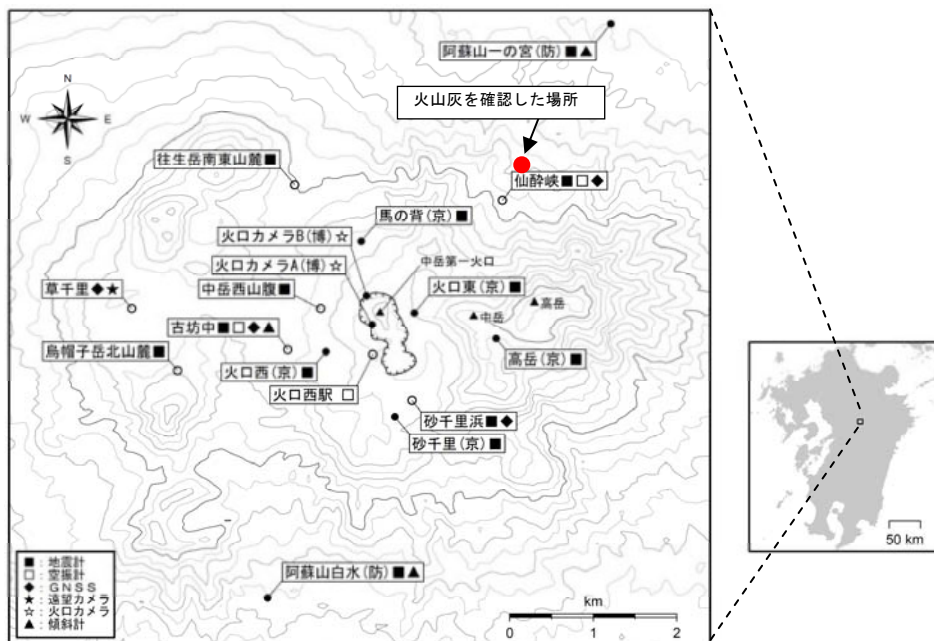


図 1 阿蘇山 観測点配置図および火山灰の確認地点

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(京)：京都大学、(防)：防災科学技術研究所、(博)：阿蘇火山博物館

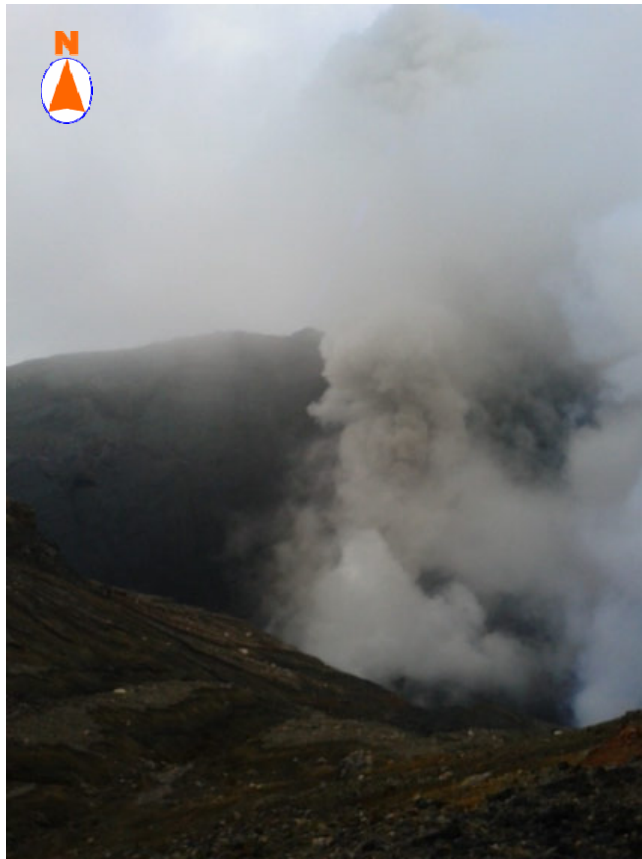


図2 阿蘇山 中岳第一火口内の状況

(2014年8月30日09時40分撮影)

現地調査では、灰白色の噴煙が上がっており、噴火が発生していることを確認しました。



図3 阿蘇山 中岳第一火口内の状況

(阿蘇火山博物館設置の火口カメラ 2014年8月30日08時53分)

阿蘇火山博物館の火口カメラでは、本日(30日)06時前頃から火口内で灰白色の噴煙を断続的に観測しました。



図 4 阿蘇山 降灰の状況 (30 日 10 時 47 分)

仙酔峡(中岳第一火口の北東 2 km 付近)では、車のフロントガラスにごくわずかな火山灰を確認しました。

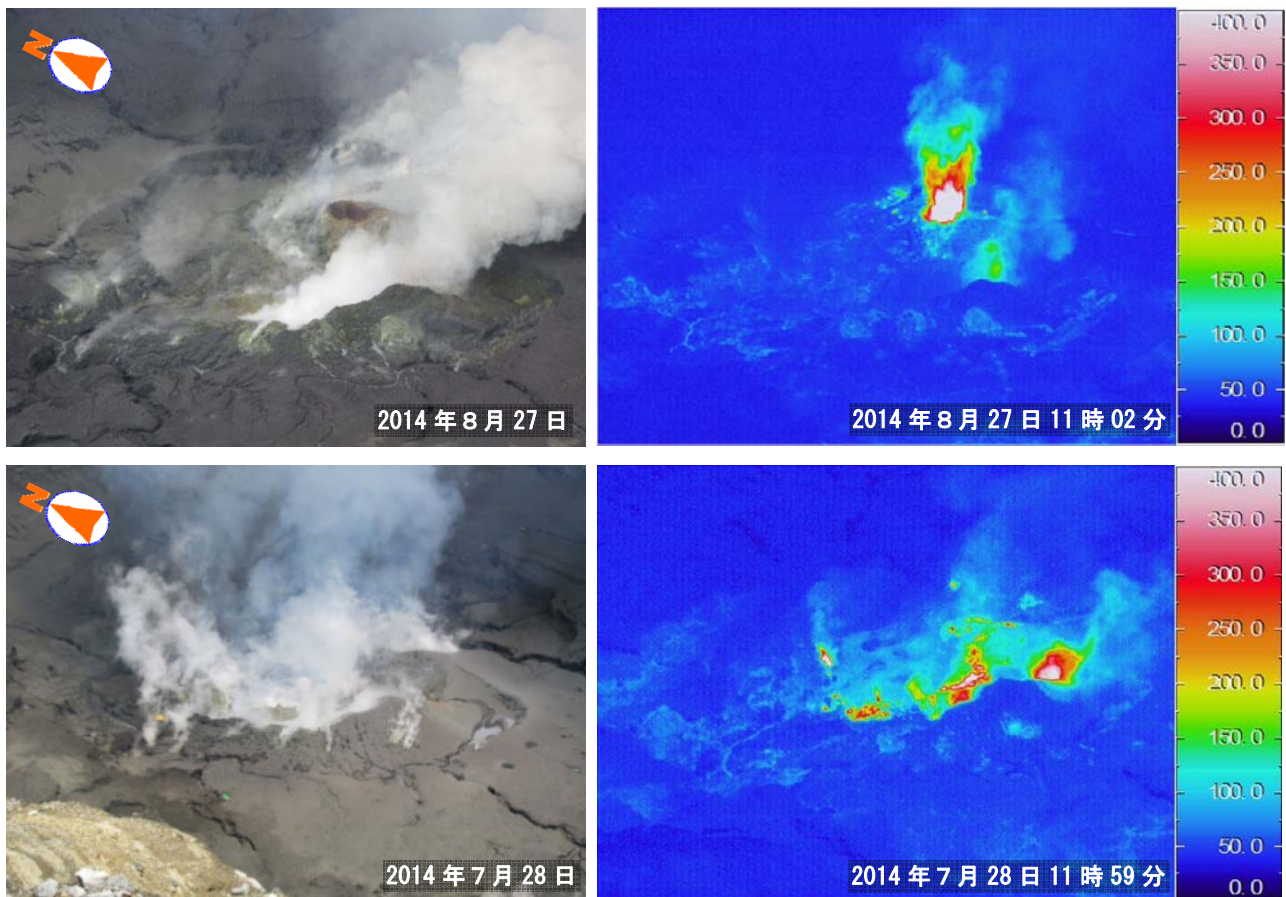


図 5 阿蘇山 赤外熱映像装置³⁾による中岳第一火口中央部の地表面温度分布

8 月 27 日に実施した現地調査では、中岳第一火口中央部で高温の噴気孔を確認しました。噴気孔の温度は 498℃(7 月: 167~341℃)で高い状態でした。



図6 阿蘇山 中岳第一火口内の状況

(阿蘇火山博物館設置の火口カメラ 2014年8月29日12時45分)

阿蘇火山博物館の火口カメラで高さ50mを超える土砂噴出を確認しました。

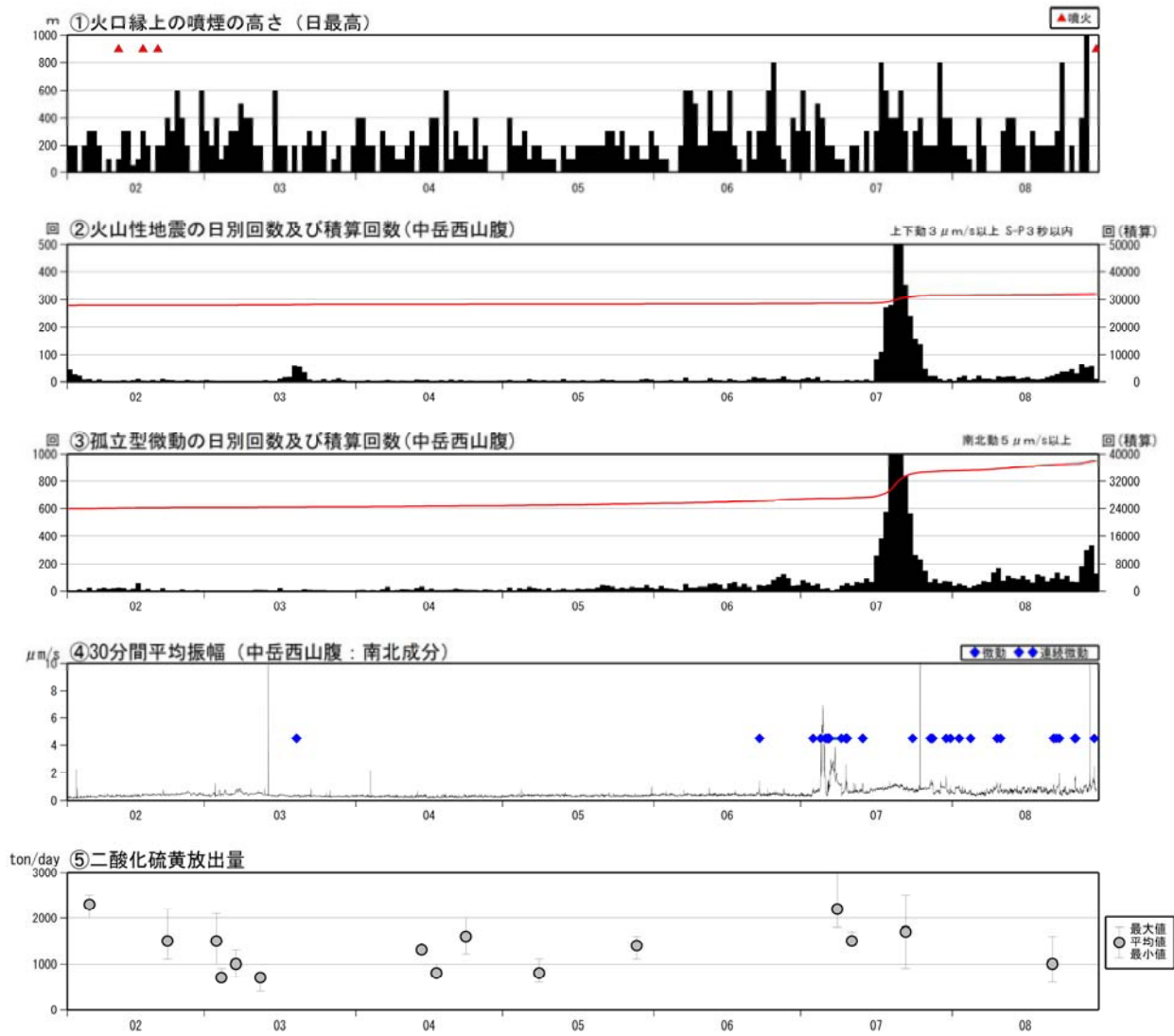


図 7 阿蘇山 火山活動経過図（2014 年 2 月～ 8 月 30 日 13 時現在）

- ・本日（30 日）09 時 13 分頃に現地調査で噴火が発生していることを確認しました。
- ・孤立型微動、火山性地震が多い状態で経過しており、29 日 16 時 44 分から 30 日 02 時 04 分にかけて、一時的に火山性微動の振幅が大きくなりました。その後も、孤立型微動、火山性地震が多い状態で継続しています。